

初乳の役割

畜産試験場

【初乳とは】

分娩後、数日の間分泌される乳汁で、黄色みを帯び、とろみ(粘性)があります。免疫(抗体)などのタンパクや、ビタミン、ミネラル、成長因子などをたくさん含み、新生子牛にとって、完全な栄養食です。

ヒトの母乳も子の成長とともに成分が薄くなりますが、牛乳も分娩してから搾る毎に薄くなり、一般に飲まれる牛乳の成分に次第に近くなっていきます。

【乳牛の哺育】

出生後、子牛はお母さんによく舐められた(リッキング)後、カーフハッチ(清潔で乾燥した小屋)で育てられます。母牛の母乳は分娩後6日目から牛乳として出荷されるため、子牛は初乳を飲んだ後、代用乳(粉ミルク)を与えられます。乳用牛の場合、雄子牛は肉用として肥育農家へ出荷され、雌子牛は後継牛として育てられます。雌子牛は適齢期に人工授精で受胎し、約280日の妊娠期間を経て出産します。今度は母牛となって牛乳を生産します。



カーフハッチ

【初乳の役割】

ヒトは胎盤を通して、抗体が胎児に渡ります。ウシやブタはヒトと違い胎盤を通して抗体が渡らないため、初乳を飲んでお母さんから抗体をもらいます。初乳が飲めないと抗体のない状態となり、病気にかかりやすくなってしまいます。母牛側では、分娩から時間が経つにつれ、初乳中の抗体が下がります。また、生まれたばかりの子牛の腸は、抗体やお母さんの免疫細胞が通りやすくなっていますが(窓が開いている)、時間の経過とともに通りにくくなり(窓が閉まる)、24時間から36時間後には吸収されなくなります。したがって、初乳は可能な限りできるだけ早く(時間)、清潔で良品質な初乳を(品質)、できるだけ多く飲ませること(量)が大切です。

初乳には、“免疫獲得”の他に“体温の維持”、“胎便の排出促進”、“栄養源”、“腸粘膜保護”の役割があり、子牛にとってとても重要です。

担当者	大森 朋子	電話番号	0263-52-1188
-----	-------	------	--------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[畜産試験場ホームページへ](#)